

クラスイズム作成が中学校体育授業に与える影響

～体育理論でオリンピズムの学びを経て～

村瀬 茜（山口大学）

1. 目的

本研究では、本研究では、中学生を対象とした体育理論の授業において、生徒に身に付けてほしい資質・能力と多く共通する点を持つクーベルタンの考えたオリンピズムの基盤である5原則に注目し教材を作成、実施し、その効果を検討することを目的とした。本授業で取り扱う「クラスイズム」という教材は、オリンピズムを学んだ生徒が普段の体育授業に、オリンピック教育で学んだ知識をより身近に感じてもらうために作成する、体育授業における目標となるものである。

2. 方法

オリンピックの基礎知識やオリンピズムについて理解する活動を通して、クラスイズム作成による授業前後の生徒の体育授業への変化について調べた。対象者は、中学校2年生135名であり、対象とする体育理論の授業は、平成30年9月に実施した。調査項目には、(1)体育授業に関する調査、(2)オリンピックの授業に関する調査、(3)クラスイズムに関する調査、(4)クラスイズムについて、の4項目がある。

3. 結果と考察

各クラスのクラスイズムは次の通りである。

- (1)我らがゼウスなり～全員フェアプレイ・全員リスペクト・全員エフォート～
- (2)附属中の代表騎士～フェアプレイ・チームプレイ・ガチプレイ～

(3)騎士道宣言～正々堂々と戦い抜く C 互いを尊重して称賛し合う C～

(4)ビューティフル D～スピード・スタイリッシュ・ボリューム・チームワーク～

体育授業に関する調査では、元々の数値が高く有意な差を見る事ができなかった。オリンピックの授業に関する調査では、オリンピズムやクーベルタンについて印象に残っている生徒が多くいた。クラスイズムに関する調査では、情意的なキーワードが多くみられポジティブに捉えられている様子が明らかになった。

4. 結論

各クラスのクラスイズムが完成し、これを基に授業を行うことができた。クラスイズムによって生徒のやる気や気合いなどといった情意面での開放が見られ、クラスイズムによって体育授業がより活発に行われることが明らかになった。さらに、教師がクラスイズムを本時のめあてや単元、授業の評価基準としても活用できる可能性を示唆することもできた

5. 参考文献

- ローラント・ナウル(筑波大学オリンピック教育プラットフォーム つくば国際スポーツアカデミー 監修) (2016) オリンピック教育 大修館書店
- 宮崎 明世 (2012) 高等学校におけるオリンピック教育の実践研究—大学と付属高校の連携による授業実践から